

## 第654回

# 九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2023年6月度 ——

◇ 開催日

2023年6月19日(月)

◇ 議題

<テレビ番組>

民放連盟賞テレビ報道番組部門出品作品

「いつか旦過で～市場大火災から1年の軌跡～」

放送日時：5月29日(月)深夜1：20～

◇ その他

九州朝日放送株式会社

## 第654回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2023年6月19日(月)午後3時25分～4時20分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

### 3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 8名

委員長	石井靖子
副委員長	藤村まこと
委員	中山裕二
委員	丸石伸一
委員	田川真司
委員	上野恵梨奈
委員	山根久資
委員	副田智幸

欠席委員数 0名

### 放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森君夫
執行役員 総合編成局長	木附ゆかり
執行役員 報道情報局長	柴田高宏
報道情報局 報道情報センター長	西村香織
報道情報局 報道情報センター 番組プロデューサー	前田輔
報道情報局 報道情報センター 番組ディレクター	今村悠人
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	吉岡実
番組審議会事務局 (視聴者・広報室)	松永俊郎

#### 4. 議題

##### (1) テレビ番組

民放連盟賞テレビ報道番組部門出品作品

「いつか旦過で～市場大火災から1年の軌跡～」

放送日時：5月29日(月)深夜1：20～

##### (2) 6月・7月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告

##### (3) 5月 視聴者・聴取者応答状況の報告

##### (4) その他

#### 5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 2度の火災を乗り越えて復興に向けてひたむきに頑張っている人々の活動を見て感動した。
- 「小倉昭和館」の樋口さんとバーテンダーの山内さんの2人を軸に、火災発生からの1年を丹念に追いかけて、希望から絶望、絶望から希望へと変わる人々の心情や、再建をめぐる思いが上手に表現されていた。スポットで紹介した複数の取材対象者とのバランスも良かった。
- 2度の火災で復興のシンボリックな存在になっていた昭和館を話の中心に据えながら、時間の経過とともに人々の「ありのまま」の様子を非常にリアルに伝えていた点が良かった。
- 旦過市場や昭和館が人々にとって文化であり居場所であることを上手に発信していた。昭和館はしばしば他でも取り上げられるが、それ以外のお店なども取り上げられていて良かった。
- リリー・フランキーさんの「焼失したのは文化という未来」「ひとつの街の文化として（小倉昭和館は）絶対あるべきもの」という言葉に心を動かされた。本作を象徴する言葉だった。
- 昭和館の樋口さんの行動力に驚嘆した。樋口さんが多くの支持を得るのは昭和館が映画館としての存在を超える文化の発信拠点であり、居場所を提供してきたからだと思った。
- バーテンダーの山内さんのエピソードはよく取材されていた。表情や言葉から「いつか旦過でやりたい」という気持ちが伝わった。番組タイトル（いつか旦過で）ともつながっていた。
- バーテンダーの山内さんがお客に励まされながら自分の店の復活を目指す様子など、全体を通して人物にスポットを当てた構成が良かった。幅広く関係者を取り上げた点が良かった。
- 時間をかけて取材を重ねた様子がうかがえた。誠実な番組づくりをしているという印象を受けた。ゆっくりとした番組展開は飽きられることもあると思うが、本作はテンポが良かった。
- どんな災害でも、被災からの復興には様々な苦悩がある。本作を通して、改めて日常のありがたみや尊さを実感することができたし、本作が復興の手助けや応援につながればと思った。
- 人が作る「旦過＝コミュニティー・文化」が残ることを願いながら、地域にあり続けたい旦過と地域密着を目指すKBCの連携とカタチを見ることができた。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 2回の火災で87店舗が被害を受けたとのことだが、87店舗のうち昭和館やバー以外の店舗のその後が気になった。継続して取材を続けることで続編を放送してほしい。
- クラウドファンディングで資金を集めることができた昭和館と違い、他の小さな店も再建できたのか（再建できなかった店はどうなったのかなども含めて）紹介して欲しかった。
- 且過市場を知らない視聴者のために少し歴史を紹介してほしい。また、被災の状況が一目で分かる地図があれば、且過を知らない人もより理解しやすい番組になったのではないかな。
- 特に焦点を当てた昭和館やバーなどの位置関係が分かれば、営業再開をめぐる関係者の心情をより理解することができたのではないかな。
- 一度ならず二度も火災で居場所を奪われた人々の気持ちを考えると理不尽さと憤りを感じる。本当の出火原因を独自で取材し明らかにするなどして欲しかった。
- 火災の原因を深掘りしていなかったが、敢えてそうした構成にしたのか疑問に感じた。例えば、商店街に潜む火災のリスクや指導などにも触れて再発防止を呼びかけて欲しかった。
- よく出来たドキュメンタリーだけに、放送時間帯が月曜日の深夜というのが気になった。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- 且過市場は北九州市の人々にとって「市民の台所」とも呼ばれるほど愛着のある場所。一度目の火災で復興の象徴になっていた昭和館が二度目の火災で焼失し、リリー・フランキーさんの「焼失したのは文化という未来」との言葉は火災の衝撃を象徴していた。
- 二度目の火災後「（復興に向け）頑張ろう」と言える雰囲気ではなくなった。それでも前を向く人々の様子から且過への愛着を感じ、人々の関りと且過に寄せる思いを描いた。
- 取材を進めるうちに常連客とのつながりが再建に向けて関係者をつき動かしていると感じた。コロナ禍で人と人のつながりが希薄になり、生きづらさを感じている人に何か伝えられるものがあるのではないかと考え制作にあたった。
- 未だ火災原因は不明。一方、本作で原因や検証をしていないのは、そこで生きる人たちが、その場所にこだわる人たちに焦点を当てたかったから。伝え方や構成にはもう少し工夫があってもよかった。
- 戦前から戦後にできた多くはトタン屋根に木造の建物。構造上の問題が延焼を招いた。延焼を防げなかったというところに関してはもう少し触れてもよかったと思っている。
- 12月完成目途の昭和館は継続して取材する。また、且過市場は再開発のエリアになっており、関係者がどう再建を進めるか取材した上で、タイミングを見て番組にしたい。
- 且過市場の映像はKBCのアーカイブスにもあまり残っていない。役所が保管する写真がないではないが、著作権等がはっきりしておらず使用が困難な状況。
- 月曜深夜の放送ではあったが、視聴率は通常と遜色ない。本作のような硬派なドキュメンタリー番組はゆっくりご覧いただくためにも、深夜に放送する意義はあると思っている。

などの説明をしました。